

Japan Beauty
from
Edo-Tokyo

日本橋美人

増刊 巻号

日本橋美人ブランドの心意気を支えるのが伝統的な「粹(いき)ーCOOL」の美意識です。背筋をすっと伸ばした粹な女性は内面から輝き、凛とした気品が漂います。江戸っ子の美学を継承する榮太樓總本舗相談役細田安兵衛氏に、「粹と」心も身体も美しい「日本橋美人への思いを語っていただきました。」

粹と

「日本橋美人」

粹



榮太樓總本舗 相談役
細田 安兵衛氏

江戸っ子の「粹(いき)」

「粹(いき)」とは、江戸っ子の間で発生した美意識を示す言葉です。同じ字でも、上方では「粹(すい)」と言います。「粹(すい)」は「行動の原理」に因るもので博識で世情や物事の道理に精通し、文化や花柳界に詳しい人のことを指しますが「粹(いき)」は行動よりも心理面に因るもので、一種の「生きさま」を示していると思えます。上方では「粹(すい)な人」を「粹人(すいじん)」と言いますが、江戸ではこれを「通人(つうじん)」と呼び「粹人(いきじん)」とは言いません。

それでは江戸で言う「粹(いき)な人」とはどのような人かと言え—— ①身なりがこざっぱり垢抜けている。②人情や世情に通じていて、道理をわかまえてい。③財力があってもそれを決して誇示しない。④知識や能力をひけらかさず、控えめで謙虚さがあり、ある意味「照れ屋」な部分がある。⑤見えない所で自分だけの贅沢をする。⑥人のさりげない行為を見抜く眼力や器量がある。⑦金銭のことをやたら口に出さず、ケチでない

「江戸っ子は宵越しの金は持たない」というのは、粹がっているだけで本場の江戸っ子ではない。⑧昔のことを自慢したり未練たらしく愚痴を言わない。⑨見栄や嫉妬をあらわにせず抑えることができる。——といったことが挙げられます。特に女性においては、気持ちこざっぱりしていて気取りもなく、洗練された上品さや色気が「生きさま」を通して表われてくるような人です。心も身体も美しい「日本橋美人」はまさに粹な女性と言えると思えます。

粹の美意識

「粹(すい)」の反対は「無粹(ぶすい)」「粹(いき)」の反対は「野暮(やぼ)」といます。江戸っ子の善悪の価値基準は「粹は善で、野暮は悪」であると私は思っています。一番野暮なのは、生きさまとして粹なのではなく、格好だけ真似して粹がる人です。

感性が生む美意識は、上方では「雅、侘び寂び、綾、錦」、江戸では「粹、いなせ、あだ、おつ、洒落」などという言葉で表現できます。色や柄についても上方は友禅や西陣などの多色で花鳥風月の柄が多く、江戸では紺・鼠・茶などの単色や縦縞が好まれました。また、交わるこ

とのない並行線の縦縞は、江戸の粹な男女関係象徴しています。上方に見られる近松門左衛門の「曾根崎心中」や「心中天網島」のような心中による男女関係の清算の仕方はありません。江戸では死による決着ではなく「心中立て」により心の中で誓いを守り通します。これこそが「粹な男女」の世界といえます。

日本橋美人ブランドの「粹」を世界に

「粹(いき)」を外国語に翻訳しようとすると「エレガント」「スマート」「シック」「ダンディ」などでは表現できない奥深さがあります。

「日本橋美人」提唱者の山田晃子さんは、今の女性に分かりやすく言い換えるとして現代でいう「クール」に繋がると言っています。日本橋に係る女性たちは伝統、歴史や文化を街中で感じ取っているからこそ粹(クール)な美人としての土壌があるのでしょう。言い換えれば「日本橋美人」の中に粹の美学の感性が息づいているのです。また他の地域にないこのDNAは江戸職人の巧みな手技、優れた老舗や名店の商品として現在も継承されつづけています。

これらの要素を融合させ「日本橋の粹な魅力」と「日本橋美人ブランド」Japan Beauty from Edo-Tokyo」を世界に発信していきたいですね。



Japan Beauty from Edo-Tokyo 日本橋美人ブランドを支える4つの美

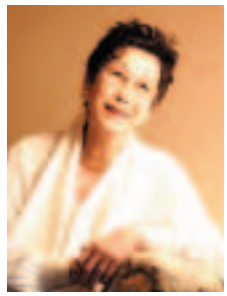
「日本橋美人」の生き方を支えているのは、日本橋が江戸時代から育み伝承してきた美意識です。深い教養と研ぎ澄まされた感性を尊ぶ江戸っ子の叡智から「心も身体も美しい」日本橋美人ブランドが誕生しました。凛とした江戸の美意識は、凝縮された4つの美として日本橋美人商品に受け継がれています。

優 洗練された仕草
粹 江戸っ子の美意識
美 Japan Beauty from Edo-Tokyo
心も身体も美しく
創 伝統が培った技
知 美人からの叡智

Color of Japan Beauty from Edo-Tokyo

- 美 ● 紅 色 紅花から採った色素で染められた黄味の残った赤。江戸時代になって紅色と呼ばれるようになった紅は奈良時代から化粧料として用いられ、万葉集にも多く詠われている。
- 粹 ● 紺青色 濃い群青色。続日本紀にある「金青」とは紺青のこと。更級日記に「ふじの山は(中略)まことなる山の姿の、こんじやうを塗りたるやうなるに」とある。
- 優 ● 鬱金色 うこんの根茎で染めた鮮やかな黄色。肌着や風呂敷または茶道具や着物を包むのに「うこん木綿」を用いた。
- 知 ● 若草色 若草のような新鮮な黄緑。草や木が萌えたつ色として古くは萌葱と呼ばれていた色である。若の形容詞がつく色は「若さ」を象徴する色。
- 創 ● 堇 色 堇の花のような濃い紫。飛鳥時代の令の服色の深紫が、江戸時代に入り似紫と名を変え明治以後堇色といわれるようになった。

他人の気持を思いやることのできる聡明さは、心も身体も美しい「日本橋美人」の魅力。現在「江戸しぐさ」が静かな話題になっているのも、相手を尊重し思いやる気持ちから自然にうまれる美しさを求める心の声があるからでしょう。豊かな教養に裏付けられたおやかな感性をもつ女性は輝いています。日本橋美人ブランドの価値観の根底にある江戸の優美な感性について、江戸思想の第一人者である越川禮子氏に伺いました。



江戸しぐさ語り部の会主宰
越川 禮子氏

日本橋美人の教養



人の上に立つ者の教え

江戸「思想」

雨

の日に道ですれ違う時に互いに傘を外側に傾けてさつとすれ違う「傘かしげ」、あとから乗ってきたお客のためにこぶし分腰をあげてさつと詰めて席をあける「こぶし腰浮かせ」、狭い道ですれ違うときお互い右肩を引いて斜めですれ違う「肩ひき」など「江戸しぐさ」が注目される、いろいろなメディアで取り上げられるようになりました。これらは「お初しぐさ」といわれ江戸しぐさの第一歩ですが、江戸しぐさは単なるマナー集ではありません。本場に大切なのはその背後にある心構えなのです。江戸思想の「思」「行為」は「言い草」の草。話す「行為」のことです。思草というのは、その人自身が人間関係を維持していくために長年培ってきた思いが、その場で瞬間的に形となって出てきた行為を意味します。

江戸思想の大事な基本理念は、「いっくさをしてはならない」という徳川家康の遺訓と、「たった一度の人生なんだからお互いに気持ちよく楽しく生きよう」という二つでした。

日本橋の主人など高い志を持った町衆のリーダーたちは、それを実現するにはどうすればいいのかを考える際に、古典を学び人間を研究することに力をいれました。町が安泰で商売が繁盛するためには、ビジネスの基本すなわち「相手との良い関係」を築かなくてはなりません。互いに思いやることで人間関係を良くしていくように工夫し、その心構えを具体的な行動に示しました。

目下の者から「おはようございます」と言われたら「おはようございます」と同格で返事をすること、小僧や丁稚の意見も「苦しゅうない、話してごらんさい」と耳を貸す。逆に江戸思想にもっとも反するのが「そんなに偉いお方は存じませんで失礼をいたしました」。これで偉くない相手はどうでもいいと言っているのと同じことで「誰に対しても尊敬の念を持つ」という理念から外れた間違った考え方とされました。企業家として組織の上に立つリーダーのこういう心構えが個人の品格となり、誰でもまねをしなくなるいきな江戸思想として広がっていったのです。

江戸小町はつきあい上手

江戸小町という言葉もありました。旨い料理を作り、裁縫ができ、親切な心、色気など、生まれたあと自分の努力で資質を磨き上げてきた女性は「江戸小町」と呼ばれ、江戸で成功する要素だったそうです。逆に自惚れの強い「あつぱい」(井中つぱい：井の中の蛙)は「旨いものでも不味く食わせる」と古来から言われていたとか。

水茶屋で働く女性の中に、浮世絵や手まり歌やお芝居にもなったステキな人気がありました。彼女は単に美しくだけでなく、お客への相違や客さばきが抜群で江戸っ子の好きな落着いたアルトの声で対応するので、お客はそれを聞きたくて、そして見たくて押し寄せたそうです。

相手の気持ちや立場がわかるように感性を磨き、人間としてのももも持っていることを大切にできる教養を身につけて、毎日の努力を積み重ねた結果、「自然に「江戸思想」が振舞えるようになった



女性には「江戸小町」として正しく評価されました。江戸小町は自立した女性でもあるのです。日ごろから正しく美しい考え方をもち心を常に磨いていけば、目つき、話し方、身のこなしや表情にそのままあらわれます。きちんとした教養があり、つきあいに上手な女性になるためにはハウツーの知識は役にたちません。高級品を身につけて美人になるような江戸思想の特効薬はないのです。生活習慣病を予防するよう、毎日の小さな積み重ねで自分自身の内側から感性や洞察力を磨き、自分の中でほんとうの美しさを育てていくことが大事なのです。「心も身体も美しく」なる「日本橋美人商品ブランド」は、まさにそういう美人づくりを支援する存在なのです。



水茶屋の江戸小町は、豊かな教養を持つ江戸思想の要諦者であった。提供：東京国立博物館

雅の伝統

井の歴史は、伊勢松坂の商人三井高利(たかし)が江戸に呉服店(越後屋三越の前身)を開き、京都に仕立屋を構えた延宝元(一六七三)年に始まり、以来三〇〇年を越えて続いています。三井家の伝統的な美意識として、「雅(みやび)」と「綺麗さび」を挙げるのが得意な言葉です。

「雅」は、平安時代から京都の長い歴史のなかで育まれてきた、いわば京文化の美意識です。「江戸店(えどだな)持ち京商人(きょうあきんど)」と呼ばれた三井家には、古くから京の雅を尊ぶ伝統がありました。特筆すべきは、江戸後期に活躍した北家である紀州藩主、徳川治宝(はるとと)と茶の湯を通じて親交を結ぶなど、江戸と京都、大名と町人の文化を結びついで、ここで非常に大きな役割を果たし、ここで永楽の茶陶に代表されるように「雅」の美しさが華を開き、以後三井家の文化の特徴の一つとなりました。

綺麗さびの伝統

「わびさび」という言葉はなじみが薄いかも知れません。「綺麗さび」というのは、徳川將軍家の茶道指南役だった小堀遠州を祖とする遠州流に伝わる、誰に対してもわかりやすい美意識だといわれています。三井家でも、幕末から明治、大正、昭和を通じて、落ち着いていながらも華やかな配色の美しさを特徴とする、綺麗さびが好まれるようになりま。

室町家では十代三井高保(たかやす)の時代から、上質の茶道具、ことに遠州好みの綺麗さびの名品が多く集められました。その一つが、「卯花壇(うの花がき)」という銘のついた志野茶碗です。現在国宝に指定されている日本で焼かれた茶碗としては、他に一点のみ存在するという貴重な美術品です。

こうした伝統を受け継いだ十一代高大(たかひろ)が蒐集した道具にも、瀟洒な美意識が貫かれています。高保と同様に高大も、茶の湯を通じて小堀家との親交を続けました。妻妾子(なご)が「業平」と名づけた花入れも、三井家に伝わる綺麗さびの代表的な名品といえます。

深さと洗練

絹

「麗さび」と「雅」の伝統はこのようにして江戸・東京に持ち込まれ、近現代にまで受け継がれています。背景を知ったうえで鑑賞すると、美術品を見る目にもずつと奥行きがでてくるでしょう。三井記念美術館に伝えられた宝室に込められている美意識は、三井家代々の高い感性と知性が培ってきたものです。コレクションの一つ一つに深い味わいと美の洗練があります。「心も身体も美しい」日本橋美人を目指す皆さんにも、ぜひこれらの優れた美術品に触れて内面の美しさを磨き、よりいっそう輝いていただきたいと思ひます。



財団法人三井文庫常務理事・文庫長
由井 常彦氏

「雅・綺麗さび」と「日本橋美人」

内側から自然と溢れてくる知性。そこから醸される品格が、心も身体も美しい「日本橋美人」を生みま。

江戸より受け継いできた教養に学ぶことから誕生しました。日本橋に受け継がれてきた伝統的な美学について、由井常彦三井文庫・文庫長に解説していただきました。

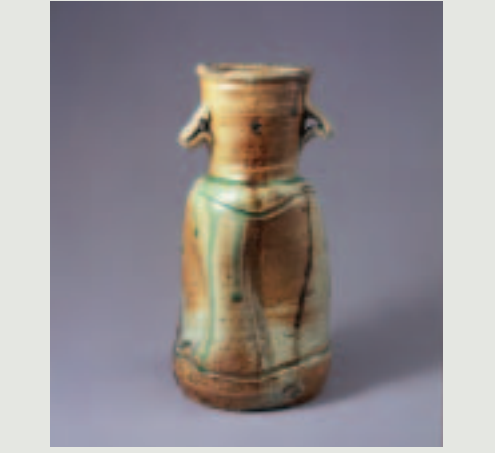
三井記念美術館収蔵品に見る三井家の美



赤地金襴手鳳凰文白 永楽和全作
明治二十年、明治天皇の献茶に使われた、三井家の雅の代表。



国宝 志野茶碗 銘卯花壇
日本で焼かれた茶碗で、国宝に指定されているのは本阿弥光悦作の白楽茶碗(この碗のみ)。



伊賀百舟入 銘業平
業平の鉢は三井高大の妻、妻子がつけたもの。

所蔵 三井記念美術館

山本海苔店

shop data

● 日本橋室町1-6-9
● 営業時間 9時~18時30分
● 定休日 年中無休(元日除く)
● TEL 03-6241-0200
● http://www.yamamoto-hiromichi.jp



海水と淡水が混じる入り江に「ナツ」や「樺(クヤキ)、竹、棕櫚(シロ)を編んだ「ヒビ」を置くと、そこに海苔が付着して成長します。海苔は日持ちせず輸送が困難なため、江戸では江戸、上方では上方で独自の海苔文化が育つていきました。

初代山本徳治郎が日本橋室町で創業した嘉永二(一八四九)年頃には、海苔の品質は千差万別でしたが、二代目徳治郎は海苔の品質管理に革新をもたらしました。佃煮用から高級な贈答用まで、それぞれのレベルに分類して等級をふり、その結果はじめて「高級な海苔」が誕生しました。明治二(一八六九)年、明治天皇が江戸から京都に行幸される際のお土産として考案されたのが「味附海苔」です。梅マークの由来は、海苔が梅と同じように香りを奪ひ梅の咲く寒中に最も育つ海苔が採取されたことにちなんでいます。

日本女性の肌が美しいのは、海と太陽が育てたミネラルとビタミンをたっぷり含む海苔のおかげだとも言われるほどです。日本橋美人商品としても最適です。おむすびだけでなく、ハムやチーズを包んでスナックとしても最高の風味を味わえるように、半裁サイズでパックしたのが「日本橋美人手巻き用焼きたて海苔」です。毎日の食卓のお供にして、身体の中から美しさがあふれる日本橋美人を目指しましょう。



榮太樓總本舗

shop data

● 日本橋室町1-2-5
● 営業時間 9時~18時
● 定休日 日・祝日
● TEL 03-6241-7200
● http://www.eitaro.com



もとは日本橋魚河岸で「蒲焼」を売り人気を集めた屋台店でした。安政四(一八五七)年三代目細田安兵衛が、本格的な店を構える和菓子店「榮太樓」を創業しました。そこから誕生したのが有名な「梅ほ志船」と、甘納豆の元祖「甘名納糖」です。かつて南蛮貿易によってスペインやポルトガルからもたらされた商品のなかに「白砂糖」や「有平糖(あるへいとう)」がありました。江戸末期にこの「有平糖」を原料にして作ったのが「梅ほ志船」です。

昔は高級すぎて手の届かなかった和菓子屋の味として普及させ、人々に愛されてきた榮太樓總本舗が、創業一五〇周年を記念して開発したのが「日本橋美人始まら」です。

船の色合いは熱処理の仕方によって大きく変化するので、有平糖の絶妙な味わいと口ざわりを守りながら、ほんのりとたおやかなソメイヨシノの色合いをだすのはとても困難なことでした。老舗の製法を崩さずに受け継いでいく一方、新しい技術革新にもチャレンジしていく榮太樓の姿勢に、江戸っ子の心意気が今なお伝わってきます。クエン酸とレモン約一個分のビタミンCがもたらすという美肌効果と抗酸化作用のおかげで疲れた気分もリフレッシュできます。おしゃれで粋な日本橋美人の持ち物にいついそおきたくなるような逸品です。



◆ 日本橋美人提唱者 山田晃子が語る日本橋美人ブランド ◆

◆ 日本橋美人提唱者 山田晃子が語る日本橋美人ブランド ◆

三味線

ばち英

皮張りに魂を込める

芳町の芸者たちや芝居が盛んな人形町の町衆の三味線屋「ばち英」は甘酒横丁にあります。三味線胴は胴屋、棹は棹師の仕事、ばち英ではそれらを組み立てる「仕込み」の工程を行っています。その中でも最も高い技術を必要とするのが「皮張り」で、温湿度に影響されやすい皮を胴に張って良い音にするには、長年培った経験と全身の感覚を研ぎ澄ました仕事が決め手と言えます。

初心者へのアドバイス、皮の張り具合の点検や調律などアフターケアも大事にしています。歌舞伎に代表される江戸の伝統芸能をより良く理解するうえでも、三味線は忘れてはならない存在です。



「心も身体も美しい“日本橋美人”は、個性を大切にしながら自分の価値を高めている人。江戸開府以来長い時間をかけて独特の文化をつくり上げてきた日本橋には、個性を培う創造のヒントがたくさん残されています。

伝統の技を伝える職人の街

技を持った職人たちは時代の風を吸収しながら新しい伝統を創造してきました。

日本橋美人ブランドの精神の根底にある創造の歴史を紐解き江戸の人々の美しさをあなた自身のものにしていきませんか。

創る・日本橋美人創

刷毛

江戸屋

手植えの技



江戸城大奥で使う化粧刷毛や将軍お抱え絵師の刷毛を作っていた江戸屋は、享保三（一七一八）年に将軍家から「江戸屋」の屋号を与えられた初代利兵衛が大伝馬町に店を構えたことにはじまります。現在では表具や塗り物に使うものから家庭用のブラシ、半導体関連まで約三千種類もの製品を扱っています。

品質の高さを支える「手植え」は、毛を指先の感覚で微妙に調整しながら量、長さ、折りを揃えて百個以上ある穴に植え込んでいく熟練の技です。職人の誠実な仕事で、「一度使うと手放せない」といわれる刷毛の伝統を守っています。

染色

濱甲高虎

江戸の洒落



「濱甲高虎」では染色に関わる数々の工程を管理し、またオリジナルの図案や型紙制作、染色などを行って商品を作っています。

祭りなどの「半纏（はんてん）」、「手拭い」、一切合財何でも入れる袋の「合切袋（がっさいぶくろ）」、お守りを入れて持ち歩くための「掛け守り」などの商品には、伝承されてきた技と江戸の心意気や洒落が反映されています。

例えば「大」きい「羊」の絵は「美しい」、「玉」と「下駄」で「たまげた」など、江戸時代の職人たちの現代にも通じるユーモアを感じさせてくれます。

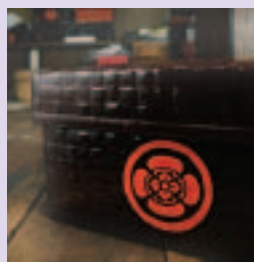
つづら

岩井つづら店

若い世代の再評価

「つづら」は江戸時代から着物などの収納箱として使われ、嫁入り道具として一家に一個はありました。日本橋には呉服店が軒を連ねていたこともありつづら屋も数多く存在していましたが、生活様式の変化に伴い呉服店が減っていくなかで、都内のつづら屋は二店舗のみとなっています。

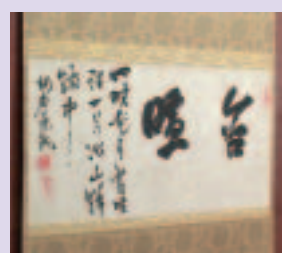
「岩井つづら店」では竹かごに和紙を貼り、柿渋と漆を塗布する仕上げ作業を行っています。軽く丈夫で通気性も良く、防虫効果が高い上に見た目も美しい伝統工芸品です。最近では民芸品として評価され、インテリアや海外へのお土産として人気があります。



表具

経新堂稲崎

品格がにじむ掛け軸



天保年間（一八三〇～一八四三）に創業した「経新堂稲崎」は大経師と呼ばれ、表具師の筆頭格です。掛け軸や屏風、額、襖などの表装をするのが仕事です。

絵や書などの作品を吟味し、その魅力を最大限に引き立たせるように掛け軸の形式と裂の素材を決めます。温湿度の変化による収縮率が異なる和紙と裂をよくなじませるように、水と糊と刷毛を使った数多くの工程を経て一つの作品ができあがります。普通でも一カ月、場合によっては一年以上かかることもあります。

伝統の技を継承しながら、現代の住空間にも似合う図案、色など新しいスタイルの掛け軸や屏風・額を提案しています。

日本橋美人新聞 増刊号

企画：日本橋美人推進協議会
発行：NPO法人 東京中央ネット
制作：株式会社 ヤマダクリエイティブ
協力：株式会社 乃村工藝社
プロデュース：山田晃子 三輪祐児

◆ 日本橋美人提唱者 山田晃子が語る日本橋美人ブランド ◆

「日本橋美人」は、江戸の文化が生まれたように、新しい楽しみ方から日本橋美人の素敵なライフスタイルが生まれそうな予感がしませんか。



「日本橋美人」は、江戸の文化が生まれたように、新しい楽しみ方から日本橋美人の素敵なライフスタイルが生まれそうな予感がしませんか。

「日本橋美人」は、江戸の文化が生まれたように、新しい楽しみ方から日本橋美人の素敵なライフスタイルが生まれそうな予感がしませんか。

「日本橋美人」は、江戸の文化が生まれたように、新しい楽しみ方から日本橋美人の素敵なライフスタイルが生まれそうな予感がしませんか。



初代山本嘉兵衛が茶と紙を扱う店を日本橋に出店した元禄三（一六九〇）年、お茶は今とは異なる製法で作られていました。煎じた茶葉を急須に入れて湯を注ぐ、という現在の方法が山城国宇治で開発されたのは元文三（一七三三）年のことでした。その茶を喫した四代目嘉兵衛は「天下」という名で販売をはじめます。この新しいお茶の飲み方はたちまち江戸庶民の生活に浸透し、「水茶屋」と呼ばれる喫茶スタイルの文化サロンも登場しました。

天保六（一八三五年）にはさらに高級な茶が誕生し、六代目嘉兵衛はその茶を「喫するに、味また甘露の如し」と評しました。これが「玉露」で、日本橋で販売するやいなやたいへんな評判となり江戸の名物の一つになりました。お茶にはシミや肌荒れを防ぎ美しい肌をつくるといわれているビタミンCやカテキン、ミネラルが含まれています。日本橋美人商品として開発した「静岡産粉末茶」は、有機栽培で大切に育てられた一番茶を粉末状にしたもので、お茶の成分をまるごと、摂ることができます。オプ

山本山

shop data

● 日本橋 2・5・2
● 営業時間 9時30分～19時※金曜のみ～20時
● 定休日 年中無休（元日除く）
● TEL 03・3281・0010
● http://www.yamamotoyama.co.jp/